フェミニズム文学批評の講義を終えて
―天津外国語大学日本語学院の学術院生を中心に―

日　時　2021年７月３１日（土）１１時００分～１３時００分　オンライン（ZOOM）
発表者　　羅　麗傑　　天津外国語大学准教授

発表者紹介　大連外国語大学大学院修士課程修了。2012年から2018年、城西国際大学大学院博士課程に在籍し、水田宗子先生のご指導を得て、博士号を取得。主な業績に「茨木のり子作品に見る「個体」意識―実存主義の視点から」（『日語学習与研究』2021年第二期、2021・4）、「〈女〉から〈わたし〉へ―茨木のり子詩作品を読む」（新・フェミニズム批評の会編『昭和後期女性文学論』翰林書房、2020・3）、「女として個人として―石垣りん詩作品に現れる女性性について」（『比較メディア・女性文化研究』創刊号、2018・1）などがある。

司 会　　和智綏子　　岩淵宏子　　野田敦子

参加連絡締切り７月２４日

発表要旨　制度的にも女性の自立や社会での活躍が保障されている中国では、多くの大学で女性学という講義が設けられている。しかし、日本語専門の学部生や大学院生にとっては縁遠いものである。それは大学在学中、言語専門を中心に勉強しているからである。そのため日本語学院などで「フェミニズム文学批評」という講義を設けたのは非常に意義深いといえる。今年の2月から天津外国語大学日本語学院の大学院授業で「フェミニズム文学批評」（2・22～7・4）という講義がスタートした。講義の内容、受講生の反応、問題点及び今後の推進予定などについて、日本語教育現場での女性学の教育実施状況を中心に考えてみたい。